

---

# 花屑プロローグ3 スクラップドフラワー

霧香 陸徒

---

## 注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

### 【小説名】

花屑プロローグ3 スクラップドフラワー

### 【コード】

N3888D

### 【作者名】

霧香 陸徒

### 【あらすじ】

疲れから熱を出してしまった芽衣。それは疲れだけではなく・・・

「ま、大事には至らないじゃろ」

「そうですかぁ・・・良かったなの」

「東の連中との事が応えたんじゃろつて。 まだ16の子娘には荷が勝ちすぎじゃと思うがな」

「・・・・・・・・彼女には悪い事をしたの。 私の責任なの」

「お前さんのせいじゃない。 皆上の馬鹿者達のせいじゃ。 こんな戦争を始めた馬鹿な大人の咎を背負えって言うのな。 こんな狭い島国で暴れたらもたんようになるにきまつとる。 我々の体も、国もな」

「・・・・・・・・」

基地の医務室。 二人の人影のそんな会話をおぼろげに聞きながら、私は熱にうなされていた。

あの非公式戦闘から帰った私は急な高熱で倒れ、この薬臭い場所に連れて来られた。

私に外傷は無い。 だが、心がボロボロになってしまっていた。

目を閉じると名前も知らない男の子の綺麗な瞳と、男の子だった塊の姿が脳裏に浮かんでは消える。

私のせいで何人もの人間が命を落とした。

。こんな状態で、私はこの場に居続ける事が出来るのだろうか……

ビーンビーンビーン！

『緊急指令！ 緊急指令！ 基地に敵国の物と思われるTAMが接近中！ 数は100以上！ 繰り返す！ 基地に敵国と思われる』

敵……襲？

警報が鳴り響く。

その警報を聞いて人影の一人が慌てて部屋を出て行った。

残った一人がこちらに近づいてくる。

「芽衣。 聞いての通り此処は戦場になるようじゃ。 すまんがヒナギクへ入ってくれるか？」

「……… 出撃ですね。 了解しました」

「馬鹿もん。 そんな体で戦えなんて言わんわい。 こんな場所よりのあの方がよっぽど安全じゃ。 事が終わるまでそこでじっとしとれ」

「……………菊池女史は……………どうするのですか？」

「わしはかまわんよ。老兵は慌てず騒がず静かに朽ちるだけじゃ……………」

「……………そのおじいさんのような喋り方と、実際の容姿と年齢が合わない変な所、私好きでした」

「うるさいわい。わしは気に入っとるんじゃ。たとえ今年で18だとしてもな？ はよ行け！」

「……………無事で」

医務室の主で養護教官の菊池純子。 彼女はこの部屋と共に死ぬつもりだろう。

長いストレートの髪をたなびかせ知的な眼鏡姿の美人で、そんな性格じゃなければモテただろうに……………。

眼鏡の底から窺える覚悟の目を見ると何もいえなくなってしまいうつとおりに私はTAMのある格納庫へ向かった。

「芽衣！？ ちょっと貴女寝てないと駄目でしょ!？」

格納庫へ行くと隊長の樟葉 菜乃隊長が自分のTAMに乗り込もうとしているところだった。

久々知 智亜子も多分もう乗り込んでいるのだろう。

「TAMの中が・・・安全だからと・・・菊池女史が・・・」

「・・・そう。あの人はまったく・・・。いいわ、万が一何かあったらオートにして本部へ行つてなの。分かるわね？」

隊長は何か呆れたようにかぶり振ると自分の機体TAM-01ヒメコリへ乗り込んだ。薄いピンク色の可愛い機体だったが、そんなカラーリングだからと言って馬鹿に出来ない。

なんと言つても最新鋭の技術の粋を集めて作られたTAMの一号機なのだから。

敵国の旧式のTAM等に遅れを取るわけは無い。

「久しぶりに大暴れなの！　いくわよちゃーこ！　みや！　せんちやん！　かーたん！」

『はい！』

隊長の号令で飛び出したのは5体のTAM。

5対100。

それだけで絶望的な出撃だった。

性能の違いがあるからといっても、絶対に数が違いすぎる。

隊長達が出撃してから私はTAMのコックピットにて通信を聞く事にした。コックピット内で外部の状況が分からなければ逃げる事も出来ないからだ。

『こちらちゃーこ。 目標を確認！ うわあ〜・・・敵さん大家族だよ〜』

『こちらみや。 こちらからも確認・・・。 数は108体ぐらいかしら？ 煩惱の数みたいよね』

『こちらせん〜 うふふ〜 お祭りだああ やっちやうぞあ〜』

『こちらかーたん・・・。 どさくさまぎれて今度この呼び方したら隊長でも許さないんだから！ じゃあ、いくわよ！』

『こちらナノ〜。 各自突撃〜』

緊張感が無い会話がスピーカーから届く。 少し可笑的い。

だが、それもそんな短い間だけで、すぐに状況が一変する。

『こちらちゃーこ！ ちょ・・・！ 待ってよ!?!? .....

2号機制御不能。 不時着する！ くそおお!!』

『こちらみや。 あ〜ん！ 早いよもう！ こっちも制御不能〜』

『こちらせん〜。 余波をまともに食らっちゃった〜 アウトします〜』

『こちら・・・ザッ・・・もう！ 滅茶苦茶じゃない！ 自重しろ  
—————!!』

ちゃーこ達数機はものの数分で不時着したりした後はどうなるの  
だろう？ 映像は無いので良く分からないが・・・。 やはり数が  
問題だったのだろう。

私は・・・、仲間がやられているのに何も出来ないのか？

私だつてこの隊の一員なのに……。

ドーーーーーッ！！

「!?!?」

直下式というか、そんな轟音が鳴り響いた。戦場は格納庫から離れているハズなので、そんな音が聞こえてくるのはよっぽどの大爆発が起こったのか……。

「……………ヒナギク！ システム起動！ ポイントアルファへ急行！」

頭がフラフラするが、そんな事は言つてられない。このまま生きながらえたとしても、絶対に後悔する。勝てなくても……せめて一矢報いる事は出来るハズだ。

待つててちゃーこ。隊長。皆。

死なないで！

TAMは人型のまま飛行出来る。フルスピードで飛ばせば数分だけどり着けるはずだ。

それまでに終わっていない事を願いながら、私はTAMの操縦桿を握り締めた。

-----

「……………そんな……………」

現地へたどり着いた私は目を疑った。コックピットから映るスクリーンにはTAMの残骸が山になっていた。

動く者は居なかった。

いや、TAMの山の上に一体居た。

それは禿山に咲いた一輪の花のように綺麗に輝いていた。

薄いピンク色の機体。

スクラップドフラワー。

「彼女」の二つ名だ。

「ナノ……………隊長……………」

圧倒的な戦力差に……たった一機で勝ったというのか……。  
この「魔王」は……。

『あら？ 芽衣？ どうしたなの？ 体調悪いんだから出撃しちや駄目でしょう？』

優しい声がスピーカーから聞こえてくる。 彼女はまったく無事だった。 それだけでとても嬉しかった。

たとえ他の犠牲があつたとしても、彼女だけは生きていてくれた……。

『…………… 敵はもう居ないのですね？』

『そうなの。 全部片付いたから帰りましょ。 あ、そこらに転がってるの回収してね？ 丁度良かったかも』

『え…………？』

隊長の機体が指差す方には薄紅色の機体や、紫色の機体等…… 私達のTAMが転がっていた。

ほとんど無傷で。

『だらしないなの。 私が突貫したら皆落ちちゃったの。 全く帰ったら鍛え直し！』

『……………隊長。 帰ったらお願いがあります』

『うん？ どうしたなの芽衣ちゃん？』

『……帰ったらぶん殴らせて下さい』

話はとてもしようもなかった。

ナノ隊長の強力な攻撃の「余波」を受けて他の4体は動けなくなっ  
てしまったらしい。

魔王つぶりも大概にして欲しい。

私達はこの戦闘をきっかけに後に本部へと配属されるのだが、そ  
れは後の話。

基地内にて。

「菊池女史。 病人で遊ぶのはやめてくださいなの」

「ほつ。 なにか言ったかのお。 最近耳も遠くなってしまうて  
なあゝまいったわい」

「私より年下でしょう!? まったく……。 芽衣が飛び出す事  
を見越してコックピットまで行かせましたね?」

「あと、お前さんが暴発するのもわかつとつたよ」

「ぐ……。 覚えてるなの!」

その病人が居る室内で騒がないで欲しいのだけど・・・。

あの後、私は症状が悪化してベットの上に舞い戻ってしまった。

だけど、今度は安心して眠る事が出来る。

私達には頼りになる隊長がいるのだから。

スクラップドフラワー。

戦場に咲く高嶺の花。

残骸に咲く花。

そんな最強のTAMを駆る私達を『花屑』と呼ぶのを納得した気がした。

# 広告募集中

小説関連広告に最適です。

出版社や印刷会社はもちろん、  
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3888d/>

---

花屑プロローグ3 スクラップドフラワー

2009年3月24日10時14分発行